

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「新出多言語資料からみた敦煌の社会」（平成 27 年度第 2 回研究会）

日時：平成 27 年 7 月 11 日（土曜日）午後 14 時より午後 17 時 30 分、12 日（日曜日）午前 10 時より午後 16 時

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 301 号室

報告者名（所属）

11 日

1) 松井太（AA研共同研究員，大阪大学），荒川慎太郎（AA研所員）

「プロジェクト全体の進捗について」

プロジェクト全体の進捗状況を確認した。

2) 松井太（AA研共同研究員，大阪大学），白玉冬（AA研共同研究員，大阪大学），橘堂晃一（AA研共同研究員，龍谷大学），コメンテーター：メフメト＝オルメズ（AA研外国人研究員，ユルドゥズ工科大学）

「河西地域ウイグル・モンゴル題記総合討議」

2010 年以來の調査を通じて本研究班が収集してきた敦煌莫高窟のウイグル語・モンゴル語題記銘文について、校訂テキスト・訳注の試案を提示した。これとあわせて、第 1 回研究会で検討した安西榆林窟・フフホト白塔のウイグル語銘文についても包括的に再検討を行ない、不明・難読・難解な箇所について討議した。コメンテーターのオルメズ（ユルドゥズ工科大学）からウイグル文献学的見地にたつ助言を得ることで、内容理解を進展させることができた。

12 日

3) 岩尾一史（AA 研共同研究員，神戸市外国語大学）

「古代チベット帝国崩壊後の青海諸勢力」

アムド地域（現在の青海省）はチベット高原と敦煌を含む河西地域との間を結ぶ地点に位置し、実際にチベットー河西間の人的・文化的交流の中継点として機能していたが、古代チベット帝国崩壊（842 年）後から 11 世紀初に青唐国が成立するまでの約 150 年の間、この地域がどのような状況にあったのかはほぼ解明されていない。本報告は関係する漢語伝世史料、敦煌チベット語文書を利用し、上述の問題を解消しようとしたものである。特に帝国期以降一貫して廓州（チェンザ）、河州（臨夏）、鄯州（楽都）が軍事的・宗教的重要拠点として機能したこと、11 世紀初めにいたり鄯州西のツォンカが重要拠点としてはじめて登場したことを指摘した。

4) 全員

「成果刊行物編集会議」

コメンテーターも交えつつ、坂尻提供の資料を参考に、成果刊行物の内容・構成・書式・フォームについて検討した。

5) 全員

「今後の研究会と調査に関する打ち合わせ」

今後の研究会の日程、ならびに本年度後半（9 月～3 月）の調査活動に関する打ち合わせを行った。